

立命館大学技術士会 第9回総会

議 案 書

R

平成30年(2018年) 6月30日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 17:00

立命館大学技術士会第9回総会議案

<第1号議案>

立命館大学技術士会第8期(2017年4月1日～2018年3月31日)事業報告

<第2号議案>

立命館大学技術士会第8期決算報告および監査報告

<第3号議案>

第9期事業計画(案)および予算(案)

<参考>

第9期役員人事:敬称略(2017年度及び2018年度)

<第1号議案>

立命館大学技術士会第8期(2017年4月1日～2018年3月31日)事業報告

(1) 会員拡大と組織強化

本会の基盤強化として、本会員、特別会員、準会員および賛助会員合計200以上を目標としたが、第8期末結果は、本会員161名、準会員3名および賛助会員6社の合計170であった。

業界、OB繋がり等からの勧誘により会員拡大を図った結果、15名の拡大が図れた。今後も、建設会、建立会等のOB会を通じて、今後も拡大を図る必要がある。また、建設会報に技術士懇談会、JABEE説明会の情報掲載を実施した。第二次試験合格者の入会を促進し、会員拡大を図る等、今後も組織強化を図る。

引き続き、会員にとって魅力ある団体を目指して、会員拡大と組織強化を図っていく。

(2) 技術士試験受験への支援

H29年度技術士第二次試験受験支援は、2017年4月1日に2回目の受験ガイダンス、5月13日、6月17日の2回、受験支援の講習会を実施した。

H30年度技術士第二次試験受験支援は、2018年3月3日、1回目の受験ガイダンスとして受験申込書、部門と専門事項の整合を核に指導する講習会を実施した。また、受講者拡大のため、2月に土木、環境都市系学科卒業生(平成13年卒～25年卒の近畿在住、勤務者)に対し、講習会案内を出した。

(3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用し、連携した講義を実施した。

①環境システム工学科3回生(70名)を対象に、「技術者のキャリア形成」に向けた指導のため、『第7回立命技術士懇談会』を7月13日、BKCにて実施した。プレゼンは、公務員、コンサル、ゼネコン各職種の職務と役割である。

懇談会後、トリシア前内庭で先生方および学生達と懇親交流会を開催した。前年に引き続き開催し、支援の継続を確認できた。

②都市システム工学科2回生(80名)を対象に、「技術者のキャリア形成」に向けた指導のため、『第8回立命技術士懇談会』を10月31日BKCにて実施した。プレゼンは、公務員、コンサル、ゼネコン各職種の職務と役割である。

前年に引き続き開催し、支援の継続を確認できた。

③環境システム工学科1回生(75名)を対象に、『JABEE認定制度と技術士資格に関する説明会』を12月21日に開催した。

JABEE制度を活かすには、取得した後輩達が技術士第二次試験に積極的にチャレンジすること、後方支援する環境が求められる。

以上の『立命技術士懇談会』および『JABEE認定制度と技術士資格に関する説明会』については、(公社)日本技術士会近畿本部および建設会の後援を得て、実施している。

また、大学の科学技術教育活動に協力し、理工学部特殊講義および理工学研究科授業への講師を派遣した。

(4) 技術講演会および親睦会

本会および会員相互の資質向上として講演会等を企画し、第8回総会時に特別講演として、コスモス法律事務所弁護士の四宮章夫様より、「元気で長生きできる会社とは」と題し、最近の企業ニュースを交えながらご講演いただいた。また本学、建山和由教授より「建設技術の新たなステージ i-Construction」と題し、その取り組み状況や先進的事例についてご講演いただいた。

毎年恒例の交流懇親会は、11月11日に「中央電気倶楽部」にて開催した。その折、江頭会員より「ヨーロッパの最近の橋梁デザインと施工方法の事例調査」について、また沢田幹事より「CIMの動向について」、報告があった。また、大学より野阪教授、横山講師をお招きし、懇親会参加者との間で大学支援に係る前向きな意見交換がなされた。

(5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

本会創設時に発行していた会報を、会員相互の更なる充実した活動を促進することを目的に10月に復活させた。今後は、会員の日頃の科学技術に係る研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告等について、投稿していただき、会員相互のコミュニケーションツールとして、活用してもらうことを希望する。なお、発行は当面、年1回、10月を目途に継続的に行う。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

①技術士受験支援基金(受験講習イベント、講師謝礼等)、②講演会・交流企画基金(講演会イベント、交流会イベント等)、③大学支援・共同企画基金(JABEE支援、共同講演会企画等)の3種の基金を設け、各事業企画に応え、活用していくこととした。

次年度以降も更に資金の充実を図る。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第8期決算報告および監査報告
(2017年4月1日～2018年3月31日)

項目	予算	決算	摘要
(1) 収入			
①会費等収入	300,000	208,000	個人会費 (104名納入)
	150,000	80,000	賛助会費 (6社)
	20,000	60,000	お祝い+寄付
②講習会収入	30,000	23,000	講習会参加費(23名)
③復興支援金	27,000	-	
未来人財育成基金	-	20,000	交流懇親会にて
④その他	415	3,400	ゆうちょ銀行利息、その他
今期計		394,400	
⑤前期繰越金	102,585	102,585	前期残高合計
合計	630,000	496,985	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	110,000	120,900	
②大学教育支援活動費	130,000	58,500	
③技術士試験受験支援活動費	140,000	93,992	
④その他活動費(復興支援金等)	80,000	5,140	22,000+13,288=35,288
未来人財育成基金		20,000	
⑤通信事務費	30,000	108,509	
⑥会費振込手数料	10,000	6,812	
上記計	500,000	413,853	
⑦大学支援・共同企画基金	100,000	-	
⑧予備費	30,000	16,005	
今期計	630,000	429,858	
	収入額	496,985	
	支出額	429,858	
収支合計=		67,127	… 次期繰り越し金額
監 査 報 告			
立命館大学技術士会第8期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証 および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
平成30年 5月 12日		立命館大学技術士会	
	会計監事	村山 稔	印
	会計監事	兼塚 卓也	印

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

預金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始) 年 月 日	年 利 率 %
定額貯金① 受検支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04
定額貯金④ 活動基金等	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01
定額貯金⑤ 活動基金等	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01
合 計		¥650,000		

*定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。
また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

<第3号議案>

第9期事業計画(案)および予算(案)

<事業計画(案)>

(1) 会員拡大と組織強化

本会の組織基盤を確立するために、会員の拡大・増強を引き続き行い、正会員、特別会員、準会員および賛助会員について、計200以上を目標に、更なる基盤構築を図る。

また、過年度より加盟要請のあった「大学技術士会連絡協議会」について1月の幹事会にて諮り、入会の意思表示を打診した。ネットワークの拡大により、会員拡大と組織強化が図れることを期待する。

(2) 技術士試験受験への支援

昨年同様、既に開催した受験ガイダンスに続き、4月7日に2回目の受験ガイダンスを行い、5月12日および6月16日に模擬試験を含む受験講習会を実施している。昨年同様、試験実施が7月中旬となり、第4回目を早めて実施した。またH31年度の受験支援については、これまで同様に3月と4月に受験ガイダンスを予定している。

今年の筆記試験合格者には、その口頭試験対策として11月10日に模擬口頭試験を中央電気倶楽部にて予定している。

詳細は、HPにおいて掲載・募集するとともに、2月に受講者拡大のため、土木、環境都市系学科卒業生(平成13年卒～25年卒の近畿在住、勤務者)に対し、講習会案内を出した効果もあり、今年度は14名の申込みがあった。

(3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境システム工学科3回生および都市システム工学科2回生の学生を対象に、『立命技術士懇談会』を企画する。

『第9回立命技術士懇談会』は、環境システム工学科3回生を対象に7月19日に開催する。『第10回立命技術士懇談会』は、都市システム工学科2回生を対象に、後期授業10月中旬頃に開催を予定する。

また、平成30年度より環境システム工学科および都市システム工学科が「環境都市工学科」に統合された。そのため、これまで環境システム工学科1回生を対象に実施してきた『JABEE制度と技術士制度の説明会』は取り止め、新1回生約160名を対象に5月28日、「めざせ技術士」技術士資格の説明会を実施した。

これらを核に、更なる大学支援を、環境都市学系と連携して図っていく。

なお、『立命技術士懇談会』は、引き続き(公社)日本技術士会近畿本部および建設会の後援をいただき、実施する。

(4) 技術講演会および親睦会

総会時に特別講演を実施し、大学との連携講演を企画する。

また、交流懇親会は継続して実施し、会員相互の幅広い交流へと企画し、展開していく。

(5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

昨年、会員相互のコミュニケーションツールとして発刊した会報を10月に引き続き発行する。また、会員に対しHPにおいてその投稿を広く募集する。

＜予 算(案)＞			
① 収 入			
(1) 会費等	本・特別・準会員	300,000	
	賛助会員	60,000	
	その他	20,000	
(2) 講習会等		30,000	
(3) 未来人財育成基金		30,000	
(4) その他		2,873	
(5) 前期繰越金		67,127	
	合 計	510,000	
② 支 出			
(1) 会員技術研修等支援活動費		120,000	
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		90,000	1,500円/人*25 含む
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		100,000	1,000円/人*50 含む
(4) その他活動費(未来人財育成基金等)		30,000	
(5) 通信事務費		30,000	
(6) 会費振込手数料		10,000	
	上記計	380,000	
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)		100,000	
(8) 予備費		30,000	
	合 計	510,000	

積立基金会計(ゆうちょ銀行)

預金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始) 年 月 日	年 利 率 %
定額貯金① 受検支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04
定額貯金④ 3活動基金	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01
定額貯金⑤ 3活動基金	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01
定額貯金⑥ 3活動基金	31-03-30	¥100,000	31-09-30	0.01
合 計		¥750,000		

*定額貯金⑥が第9期の基金予定額である。

*定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

<参考>

第9期役員人事:敬称略(2017年度及び2018年度)

役職名	氏 名 (敬称略)	卒 業 年	部 門	
会長 (1名)	大森 秀高	S 50	建 設	
副会長 (6名程度)	楠本 博	S 54	建 設	
	土屋 光弘	S 58	建 設	
	太田 和夫	H 05	建 設	
	橋口 正悟	H 15院	建 設	
幹事 (20名以内)	大森 秀高	留任	S 50	建 設
	糸田川 廣志	留任	S 47	上下水道
	西村 敏	留任	S 54	上下水道
	楠本 博	留任	S 54	建 設
	日室 伸一	留任	S 54	上下水道、建設
	沢田 道彦	留任	S 54	建 設
	吉田 順一郎	留任	S 55	建 設
	久後 雅治	留任	S 57	建 設
	土屋 光弘	留任	S 58	建 設
	野村 嘉樹	留任	S 60	上下水道
	星野 和之	留任	H 03	建 設
	青山 裕之	留任	H 05	建 設
	太田 和夫	留任	H 05	建 設
	今井 豊	留任	H 08	上下水道
	春田 健作	留任	H 12院	建 設
	今道 洋	留任	H 13院	上下水道
長谷川 真也	留任	H 13	建 設	
橋口 正悟	留任	H 15院	建 設	
服部 亘啓	留任	H 17院	建 設	
幹事長	糸田川 廣志	留任	S 47	上下水道
監事 (2名)	村山 稔	留任	S 49	建 設
	兼塚 卓也	留任	S 57	建 設

幹事および監事以外の役員

役職名	氏 名 (敬称略)	摘 要
顧問	児 島 孝 之 山 田 淳 田 中 伊 三 雄	
相談役	奥 村 一 大 同 淳 之 岸 田 順 三 渡 邊 郁 夫	